

# ISO14001取得の真実

ISOの取得で、14001は現在単月で9001をこえている。  
全世界では、中国に次いで第二位。先の京都議定書の発効から盛んになり、現在ISO取得の両輪に。

取得企業の社会的評価は、「雇用」に次いで企業の社会的責任（CSR）の具体的表現と価値づけられている。

## ISO14001取得の肝とは？

- ズバリ 1. 環境法令の遵守
- 2. 事業活動の環境影響の正しい管理

14001を取得しようとする企業の所在地の市、県の環境条例や規制を精査し、クリアーする必要がある。今は、インターネットで確認が容易だ。

## 14001取得の誤解

### 1. 企業規模の拡大でガソリン代やコピー用紙が増えた！・・・だめなの？

全く問題なしです。ガソリンは燃費（リッター当たりの消費量）の管理でOKだし、コピーも売り上げや人員の単位当たりの管理で問題ない。

組織の発展の為のマネジメント規格が発展を規制する事はありません。

### 2. すべての環境に影響する側面を削減・管理しなくてはならないのか？

全く異なります。自社で長期と短期に取り組む課題を決められます。その上で取り組みを実績管理してゆきます。たくさんある時は、優先順位を付けて徐々に実行できます。

### 3. 目標を達成できなければ、規格を取り消しにされるの？

勿論 9001 同様目標に向かって管理するのが ISO の基本ですが、クリアできないから、取り消しなどにはなりません。

問題は、目標を達成できなかった時の対応です。なにも対策しなければ、ISO 14001 のマネジメントをしている事にはなりません。審査機関から指摘をうけます。改善をすれば問題ありません。

### ISO 14001 の取得の本質を考える

～例えば製造業で自ら設計・開発をしている企業が 14001 を取得する場合～

一般には、製造工場の生産活動の環境管理を思い浮かべる。騒音、振動、臭気、廃液・土壌汚染管理など。境界線での測定が必要の場合も。

しかし、製造業が 14001 に取り組むのは、ここにとどまっていた次元が低い。

製造の原材料の原価を削減するようになれば、1 ランク高い次元となる。

更に人体に優しい、地球に優しい製品は、従来品とは違う視点で開発設計する必要がある。更にレベルが上がる。

#### 私の知っている或る製造業者は

ドイツの取引先からヨーロッパの「ローズ規制」の要求からどうしても重要部品が使えなくなった。設計を抜本から見直す必要に迫られた。

設計担当は材料、接合部品、稼動円滑剤など全て見直した。そして以前以上の性能とコストを見事達成。注文が以前以上になった。

そして、この実績で業界内での競争力は飛躍し、売り上げが大幅増になった。

よく ISO 14001 は、「〇〇してはいけない」という規制のための規格と考えられがち。

しかし、その本質は企業の競争力を本格的に強化する視点で考えると、全く違

った景色が見えてくる。

ISO14001を厄介な規格と捉えずに前向きに取り込めば、大きな成長が可能なのだ。

自社の既存の製品を『環境』の視点から抜本的に見直してはどうか？  
それは、この地球環境の中で中小企業が生き残り成長する起爆剤になる。

『紙、ゴミ、電気』を節約するのがISO14001ではない。

本来ISOは、組織の成長を目的にしているのだ。この点お見逃しなく。